



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp/>

【発行責任者】 前田 妙子

【メールアドレス】

honbu@narakenshiren.gr.jp



新年のご挨拶

会長 前田 妙子

新年あけましておめでとうございます。

平素よりご支援、ご協力をいただいております皆さま方に心より感謝申し上げます。

令和4年は新型コロナウイルスと共存して日常生活をしていく『ウイズコロナの時代』に入ったと言えるでしょうか。当会におきましても、「今できうる活動は何か?」と役員を中心に様々な研修部会や事業を計画し、感染対策を講じながら無事遂行することができました。参加者の皆さんから感想を寄せていただいておりますのでお読みいただければ幸いです。

ご講演、ご参加、ご協力いただいた方々にあらためて感謝申し上げます。

当会の喫緊の課題の一つとして、「老障介護」があります。障害のある子どもを長年介護し続けてきた親は高齢化し自分自身も介護が必要となり、障害者本人も加齢による二次障害や病気なども加わり、親子で切実な事例が私たちの身近に出てきています。このように困りごと・生きづらさが多様化・複雑化し、障害福祉と高齢者介護の連携、時には地域などを巻き込んで横断的にその家族の生活全体を支えていかなければ解決に結びつかないケースがあります。また、在宅生活が困難になって次なる生活の場を探すにも、入所施設はほぼ満床、重症心身障害者が暮らせるグループホームはほとんどなく、親の急病などの緊急時には、数か所でのショートステイで生活をつないでいるケースもあるようです。老障介護だけでなく、昨今の日本が抱える多様化・複雑化した「くらしの困りごと」に対応するために国は「重層的支援体制整備事業」を社会福祉法に位置付けました。障害、高齢、子育て、生活困窮といった分野別の支援体制では解決に結びつかない困りごとを、横断的に包括的に支援する体制を整えるということです。奈良県においても令和4年4月に「奈良県人と人及び人と社会がつながり支え合う地域福祉推進に関する条例」を施行しました。わたしたちは「障害者福祉」だけを注視するのではなく、すべての人びとのための仕組みとする「重層的支援体制」の中の「障害福祉」が今後どのようになるのか、またこのような国や県の動きを見逃すことなくしっかりとキャッチしておく必要があります。今後、研修部会で取り上げて勉強していきたいと思えます。

令和6年度には、全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会を奈良県で開催することになりました。奈良時代、熱い仏心のあった光明皇后は、施薬院や悲田院を作り救済事業を始められ、これが日本の福祉の始まりともいわれています。福祉の始まりの地である奈良県らしい記憶に残る、心の通う大会となるよう準備をしまいたいと思えます。

今年こそコロナが終息し、希望が芽吹く春が訪れる年となりますよう祈るばかりです。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

父母の会に寄せて



奈良県福祉医療部

部長 筒井 昭彦

新年あけましておめでとうございます。

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様には、平素から奈良県の障害福祉行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。また、前田会長をはじめ会員の皆様が、肢体不自由児者の生活の向上、社会参加の促進など、様々な活動に積極的に取り組まれていることに、深く敬意を表します。

さて、県では、令和2年に策定した「奈良県障害者計画」に基づき、「Ⅰ 障害のある人に寄り添った生活全般にわたる支援」、「Ⅱ ライフステージを通した切れ目のない支援」、「Ⅲ 社会参加の促進による自己実現のための支援」を基本的な考え方として、福祉、保健・医療、教育、就労等の幅広い分野を密接に連携させながら、障害のある人への就労支援や居場所づくりなど、障害者施策を核として関連する福祉施策やその他施策を総合的に推進しているところです。

また、重症心身障害児者等に関する取組については、令和3年4月に施行した、「奈良県重症心身障害児等の地域生活の支援に関する条例」に基づき、重症心身障害児者等の地域生活の支援に関する施策を総合的かつ計画的に進めることとしています。令和3年1月に開設した「奈良県重症心身障害児者支援センター」では、重症心身障害児者、医療的ケア児等とその家族が、身近な地域において支援を受けられるよう、広域的・専門的な相談支援や各関係機関との連携・調整、人材育成等を行っています。

昨年には、障害福祉サービス事業所への社会資源調査を実施しました。令和3年度に皆様にご協力いただいた「重症心身障害児者等アンケート調査」と併せ、障

害福祉サービスを提供する事業者側の課題と、サービスを利用する重症心身障害児者やそのご家族のニーズの双方を把握するとともに、それらをマッチングする仕組みについて検討を進めています。

現在、県では障害のある人一人ひとりの思いの実現を目指し、障害のある人に寄り添い、ライフステージを通した切れ目のない支援を行う仕組みの構築について、検討を進め、今春に新たな障害福祉に関する条例の制定を目指しています。この条例は、障害のある人が学校卒業から就職への移行などのライフステージのつなぎ目で一度支援が途切れると、再び必要な支援につなげることが難しいことや、親の高齢化など障害のある人の家族等が抱える不安などの課題に対応することを目的としています。

今年の干支は「癸卯(みずのとウ)」ですが、中国の陰陽五行思想によると、「これまでの努力が花開き、実り始めること」という意味があるそうです。これまで積み重ねてまいりました取組を礎に、さらなる一步を踏み出せる年にしたいと考えています。

今後とも、すべての県民の皆様が、障害の有無に関わらず、お互いをかけがえのない個人として尊重し合いながら、安心して幸せに暮らすことができる社会の実現を目指して取組を進めてまいりますので、父母の会連合会の皆様方には、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、父母の会連合会の益々のご発展を心から祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



NPO 法人サポートセンターはあと生活介護利用者による壁面作品

「子ども達から教わったこと」

奈良県立明日香養護学校

校長 中井 和代

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆さまには、日頃より本校教育の充実のために深いご理解と温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

4月より明日香養護学校に着任させていただきました。明日香養護学校には昭和62年4月に初任教員として赴任し、再び、校長として着任できましたことを大変うれしいご縁として光栄に思うとともにその責任の重さを感じております。

さて、私事になりますが、障害のある子どもたちとの出会いは、大学2回生、身体障害の子ども達のための訓練会の見学でした。私の目の前には、3歳ぐらいの男の子がお座りできるように先生や親御さんと一緒に訓練をしている姿がありました。うまくいかずに泣き出してしまう場面や褒められるとにっこりと笑顔になる場面もありました。その光景は今も鮮明に残っています。リラックスできること、ひとりで立ったり歩いたりできることなど、どの子も目標に向かって真剣に取り組んでいる姿や親御さん方が実に明るく前向きに寄り添っておられる姿に感動し、スタッフとして月例会や宿泊キャンプにも携わることとなりました。そこに集う全員が同じ願いを持ち、共に時間を過ごした、数年間に及ぶ経験は私の基盤になっていることは言うまでもありません。

あれから約40年が経とうとしています。養護学校に勤務したくさんの子どもたちとの出会いがありました。筋緊張がとても強く呼吸状態が難しくなる子どもさんが少しでもリラックスして過ごせる姿勢や抱き方を探ったり、自分の額を床に打ち付ける行為を繰り返し自分の世界に閉じこもる彼の安心につながる手立てを探ったりと、日々、子ども達との「やりとり」を大切にしながら向かい合ってきたと感じています。子ども達は、言葉には表れなくても、表情や視線、息づかい、身振りなど全身でたくさんのごことを表現しています。そのサインを受け止め適切

に返していくには、子どもひとりひとりの「ものさし」に応じて寄り添っていく必要があります。目の前にいる子ども達を受け止め、良さを引き出しながら、子どもの心を広げていくことが何よりも大切だと子ども達に教えてもらいここまで勤められました。子ども達、保護者の皆様に本当に感謝です。

今、障害者を取り巻く社会の環境は大きな変化を見せています。また、令和に入り教育分野も大きな転換期を向かえています。ひとりひとりが主人公でそれぞれの違いを認めることができる社会の実現に向けて、父母の会の活動の根幹でもあるネットワーク作りの中から、子どもを取り巻く支援者が出会い、つながりながら、役割を果たしていきたいと思っています。今後とも、ご支援の程よろしく願いいたします。



事業報告

肢体不自由児地域療育活動助成金事業

研修部会 講演会

「福祉ホーム コットンハウスの現状と取り組み」

日時:2022年7月5日(火)10:30~12:00

場所:奈良県社会福祉総合センター中会議室

講師:社会福祉法人わたぼうしの会

たんぽぽ生活支援センター 岡部尚子氏

参加者:会員32名 障害者本人1名 介助者1名
福祉関係者4名

▼子供も来年は40才になりますので、岡部さんの話は心にスーと入ってきました。福祉に携わる方の離職率は本当に高いです。気持ちよく働いてもらえる環境にする

事は利用されている(ご本人)方の生活の質にもつながる様に思います。現在は数十年前の福祉とは比べものにはなりません、まだまだ変化が必要です。行政、福祉の専門職の方々、更に親の力が必要だと感じました。

▼福祉ホームという初めての住まいを知り、見学させてもらって、ついこの前のことのように思うのに、もう、24年も経たということにびっくりしています。私の子供も50前になり、改めて年がいくということ、2次障害等の話を具体的に聞かせていただいて、とても勉強になりました。その時にあわてないように、今から支援者の人も巻きこんで考えていこうと思っています。ありがとうございます。

▼息子が成長するにつれて、本人の将来について、両親が面倒を見られなくなった時の事を考えることが多くなってきました。岡部様のお話をうかがい、単純にグループホームや施設入所等、住む場所を見つけるだけでは、だめであると感じました。本人達が、生き生き生活できるように(誰もが切なる願いですが...)親に出来る事を考えなければと思いました。



奈良県肢体不自由児(者)文化・芸術活動補助金事業
研修部会 講演会
「好奇心は免疫を高める」

日時:2022年7月27日(火)10:40~12:20
場所:奈良県社会福祉総合センター大会議室
講師:東大寺総合文化センター総長

狭川普文長老(東大寺第222世/223世 別當)
参加者:会員38名(障害者本人4名介助者5名福祉関係者/賛助会員3名)

▼元気に楽しく話される長老様の講演に最後まで引き込まれっぱなしの時間でした。いつも、目の前のことに精一杯で、生活のためにはなければならぬことをこなすだけの毎日。好奇心をもつなど忘れてしまっていたように思います。目の前だけでなく、少し、顔をあげて興味をもてるものを探してみようかなと思えるようになりました。気持ちが元気でないと身体が元気でいられない。今日のこの講演でたくさん元気をもらえました。ありがとうございます。



▼宗玄長老の出兵の時のエピソードにとても心打たれました。宗玄長老の書を玄関に飾って日々眺めたいと思いますが、人を思う気持ちを持てるように暮らしたいと思えます。大仏殿が永い時を超えて今もあること、これからも守られていくこと、そのために100年単位で取り組みを重ねていくといわれていました。絶対あきらめなければ、理解してもらえる人に出会い、夢が現実になるとも。普文さんが、立ち止まることなく、次の墨書展のための取り組みをしてくださっていると知り、心から感謝しました。私も、子どもたちが地域で自立して暮らすという願いが叶うよう、あきらめずに取り組んでいきたいです。

▼狭川長老の楽しいお話で今まで深く考えていなかった「はやぶさ」やスパコン~(から)世界の今、起っている事と、広い視野で物事に興味を持つ事の大切さが、ひいては獲得免疫につながるという事を教えていただきました。もっと、お話を聞いていたかったです。



肢体不自由児地域療育活動助成金事業
 研修部会 講演会
 「遺言書の書き方」

日時:2022年9月6日(火)10:30~12:30
 場所:奈良県社会福祉総合センター大会議室
 講師:あかるいみらい準備室

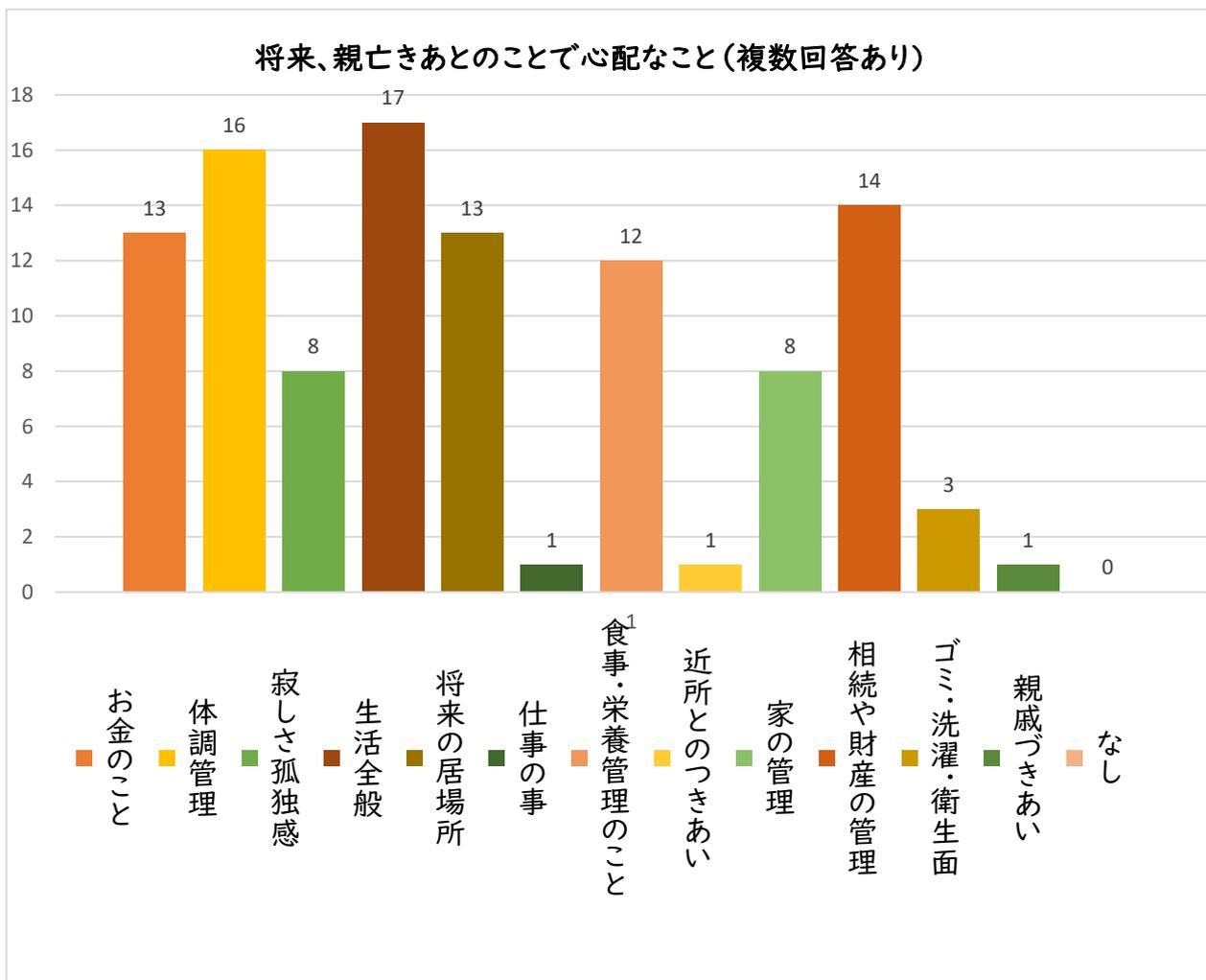
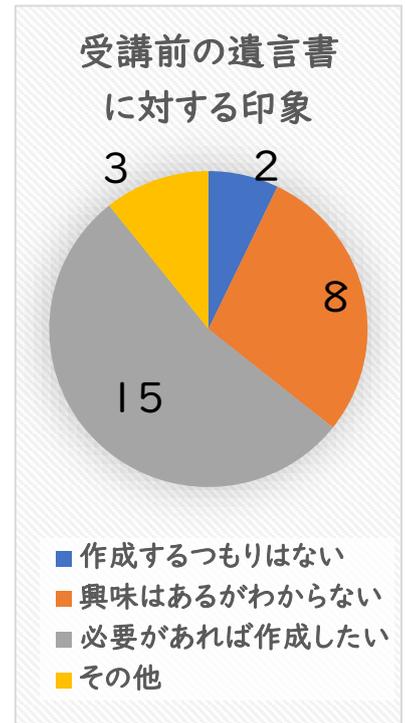
代表 山口まゆみ氏

参加者:会員27名 会員外1名

参加者にアンケートを実施しました。以下感想を抜粋します。

▼遺言書を作成するためには、まず、主人とお金や財産のことを話し合いをする必要があると感じた。エンディングノートを書き、障害のある子と姉弟のことをしっかりと考えて行きたいと感じました。

▼エンディングノートについては、今までお話をきく機会がありましたが、今回、法にもとづく、遺言書の作成の仕方、意味を知り、今後を考えることが出来そうです。ありがとうございました
 ▼考えなければならぬとおもいつつ先送りしていたが、この様な話を、遺言書について聞くことができて良かった。



第55回全国肢体不自由児者連合会全国大会
第57回東海北陸肢体不自由児者連合会愛知大会

日時:2022年9月10日(土)10:30~12:30
場所:ロワジールホテル豊橋 ホリデイ・ホール
大会テーマ:住み慣れた地域で自分らしい生活ができる共生社会の実現!
参加者:2名(他オンライン4名)
◇基調講演「誰もが生きていくことができるまちづくり」
トークセッション~本当のインクルージョンをめざして~
玉木幸則氏(一社兵庫県相談支援ネットワーク代表理事)&新井在慶氏(NPO法人ふいーる工房統括部長兼田原市障害者総合相談センター長)
◇分科会 第3分科会「地震に備える」
第1分科会「肢体不自由児者に期待されるICTの活用」、第2分科会「教育現場は今」、第4分科会「肢体不自由者の福祉的就労と一般就労」については、後日配信されました。



2022年度 JKA 補助事業
近畿ブロック地域指導者育成セミナー
障害児者と家族、支援者のための研修事業

日時:2022年10月15日(土)10:30~16:00
場所:奈良県文化会館集会室 A/B
テーマ:車いす等利用時のシーティングと支援機器等の活用について
講師:株式会社アクセスプランニング シーティングスペシャリスト 山崎泰広氏
参加者:46名(奈良県15名・介護者 他全肢連2名 近畿府県28名)
内容:午前山崎氏による講演
午後 障害児者4名の実技体験と質疑応答

山崎氏より、障害児者のためのシーティングの活用~シーティングで変わる障害児の未来~という内容で



講演いただきました。車いす上のシーティングは、個々で違いはあるが例として機能性の向上、快適性の向上、褥瘡の予防、誤嚥の防止、自立支援など多くの目的があり、車いす上の姿勢の土台は骨盤の傾きがポイントであると言われました。そしてそのシーティング技術を支えるための支援機器の紹介をされました。

午後は4名の障害児者による実技体験が行われ、滋賀県から2名、奈良県から池田真一さん、深野雄太さんがシーティングを体験されました。深野さん(母)は「他の予定を休んで参加させていただいて、とても良かった。参考にできそうなアドバイスをいただきました」と感想をくださいました。

全肢連主催 公益社団法人日本財団助成

「重度障害者(医療的ケア含む)が地域で格差なく暮らせる社会の創造」検討事業

「ともに生きるシンポジウム」

日時:2022年11月22日(火)13:30~15:30
場所:クレオ大阪中央(大阪市天王寺区)

講師:大垣勲男氏(社会福祉法人伊達コスモス21 理事長) 清水明彦氏(社会福祉法人西宮市社会福祉協議会副理事長)

参加者:4名

「ともに生きるシンポジウム」に参加して



前田 妙子

始めに、伊達コスモス21の大垣氏から、全肢連の「医療的ケアを含む重度重複障害者等のグループホームを運営している事業者を対象とした実態調査」の中間報告がありました。

・制度上の人員配置の4割増しで運営しないと安心安全が保てないこと

・医療的ケアが必要な人が入居していても医療連携加算が少なく看護師常駐ができていないケースがあること

・個人単位のサービスである重度訪問介護等で制度上の人員配置で足りない分を補っていること



・グループホーム建設においてバリアフリーや機械浴整備の国庫補助金の加算がないこと

で事業者の負担が重いこと

以上のようなことから、あらためて現行のグループホームの制度が医療的ケアを含む重度重複障害者に対しては全く脆弱であることが読み取れます。グループホームに暮らす人の実態に合った建設設備ができるよう、また介護、医療の人員配置ができるように加算等で補填できるような制度になるように、これからも全肢連を通して声を上げ続けたいと思います。

次に、西宮市「青葉園」の重い障害のある人たちが拓いてきた地域の暮らしと題して、西宮市社会福祉協議会の清水氏から今までの取組みの紹介がありました。グループホームの概念も制度もない時代から地域で暮らす方法を模索し、障害があるとかないとかではなく、その人の思いを中心に考え実践してきた、そこに制度が後からついてきたとのこと。「民家を借りる」「親亡き後の実家で暮らす」「マンションや市営住宅などで暮らす」等、暮らし方は様々ですが「その人がどのような暮らしをしたいのか」が常に軸であり、本人の思いに寄り添った本人中心の支援の輪を展開されているという熱いお話でした。現在、青葉園では20名以上の方が24時間365日一人暮らしをされているということです。

在宅、施設、グループホーム、共同生活、一人暮らし等々、いろんな暮らし方がありますが、「本人が望み幸せだと感じる暮らし」なら正解も不正解もないということだと思います。

私自身母親としては、一日でも長く障害のある娘と在宅で一緒に暮らしたいと思っていますが、人生の主人公である娘自身の思いはどうなのだろうと考える機会となりました。

さわやかレクリエーション助成金事業
クイズで探索～なら歴史芸術文化村～

日時:2022年8月27日(土)13:00~16:00

場所:なら歴史芸術文化村(天理市杣之内町)

参加者:11名

なら歴史芸術文化村は、歴史、芸術、食と農など奈良県の誇る文化に触れることができる施設で、周りには自然豊かな四季を感じられる環境の中にありました。



まず、本人が親や介護者とペアになり、各棟の見学にあたり、奈良の歴史芸術文化に関するクイズに答えるように各自でクイズの問題のヒントを探しながら見学しました。文化財修復・展

示棟では、文化財である仏像等彫刻、絵画・書跡等の修復作業現場を公開していて、奈良県肢連のチャリティー墨書展でお世話になっている南都諸大寺の文化財の修復もされています。クイズの問題は思考を巡らせた内容だったので大変楽しく見学できました。そのあとまたみんなで集まりクイズの答え合わせをしました。皆良い解答率でしたよ。そのあとはお楽しみのビンゴゲーム!奈良ゆかりの品物で大変盛り上がりしました。

この見学の目的は、奈良の歴史や文化・芸術に触れることは勿論、身体障害のある人達にとって、この施設が配慮されているかどうか大事な目的の一つでした。出入口の段差にはスロープを出してくださり、道を横断するときなど誘導していただきました。障害者トイレには、1か所ですが成人用ベッドが設置されていました。

コロナ禍でありましたが、実施できて良かったと思いました。どんどん障害のある人たちが外へ出ていくことで、健常者に理解してもらえそうです。

奈良市 山本 陽祐

久しぶりに本人部会に参加して、クイズは最初とても簡単で楽勝だと思ったけど中には、とても難しい問題もありました。学生の時にはクイズラリーをしたことが有りましたが、卒業してからは体験することが無かったのでなつかしくも思いました。結果、全問正解!ビンゴゲームでは、なかなか数字がそろわず母が先にビンゴとなり、景品のキーワードは僕が「あまい」を選び、なんと一番高価な果物のセットでした。続いて僕もビンゴ!!となり、景品のキーワードを選びました。僕には、あんまりわかりませんが二番目に高価な母が好きな、雁が音のお茶をゲットしました。ビンゴの順位は下だったけれど大逆転した気分でした。仲間や友達と、このように集まれるのは、やはりとても楽しいです。



ヒント
教えて〜

事務局のYさんが楽しい企画を準備してくれた事がとても嬉しかったです。ありがとうございました。



奈良県肢体不自由児(者)親子県外交流事業
さわやかレクリエーション助成金事業
「音楽を楽しむ会」～はもりベ コンサート～

日時:2022年10月1日(土)14:00~16:00

場所:いかるがホール 小ホール

出演者:HAMORI-BE(はもりベ)

中川公志さん 小原有貴さん

ピアノ伴奏 佐野真弓さん

参加者:42名(会員・本人25名・会員外8名、
介護者・8名、学生ボランティア1名)

音楽を楽しむ会に参加して

磯城郡 中村 幸子

10月1日(土)いかるがホールで行われた奈良県肢体不自由児(者)親子県外交流事業音楽を楽しむ会の「はもりベコンサート」に親子で参加させていただきました。男性2人でハモって歌われるコンサートです。



行く途中、久しぶりの秋晴れて風も気持ちよく会場に着いてプログラムをいただくと1部は秋の曲がたくさん紹介されていました。はもりべさまのハーモニーの素晴らしさに本当に感動しました。秋の光景がはっきりと目に浮かんでくるようでした。第2部では歌い継がれている昔の日本の歌を説明付きで歌ってくださり、懐かしく、聴かせていただきました。ピアノの音色もとても綺麗でした。あらためて、音楽っていいなあ堪能させてもらいました。

開催にあたり、コロナ禍の時期に企画してくださり、感染対策と人数制限もきちんと執られ、準備して下さった会長様はじめ本部役員の方々に心からお礼申し上げます。お陰様で安心して心行くまで楽しむことができました。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、はもりべのお二人に感謝申し上げます。

最後にありがとうございました。

西和地域 西村 涼子



3年ぶりに、思い切って人の集まる場へ、足を運びました。もちろん、安心感があってのことです。音楽は大好きです。

生の音はうれしくなります。ピアノの音、人の声は、耳にすんなり入ってきて、心地良くなります。久しぶりに、1つ1つの音を大切にされている音楽に触れる

ことができ、とりわけ、歌詞が聞き取れる安心感は、丁寧に、”置いていかれない”を感じられることができました。

小原さんの”ん？芸人？”と思わせるトークに、ちょっと困った様子の中川さん、冷静に次を見ている佐野さん。 ”いいチームだなあ”と思ったら、大きな声で笑ってしまいました。どこか、ざらついていた気持ちが融けていました。穏やかな時間をありがとうございました。

この場を、設けて下さった方々に感謝と、感染対策にご配慮いただき感謝致します。



奈良市 長濱 典子

秋晴れの気持ちの良い午後、久しぶりの娘とのお出掛け、うきうきして、会場に向かいました。目を閉じて、深呼吸して、HAMORI-BE のお二人の歌声を聴いていると、日常とは違うゆったりと時間が流れ、別世界にいるようでした。心が元気になりました。

第1部は、秋を感じる曲を、第2部では日本の歌の歴史を感じる曲を選曲されていました。秋の風景が目に見え、秋を感じながら、日本語の美しさを再認識し、贅沢な時間をいただきました。ソロも素敵でしたし、デュオでハモった奥行きのある歌も堪能しました。

日頃、娘と二人でコンサートに行くのは難しい状況ですが、素敵なコンサートを企画いただき、楽しい時間をお友達のご家族と一緒に過ごせたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。



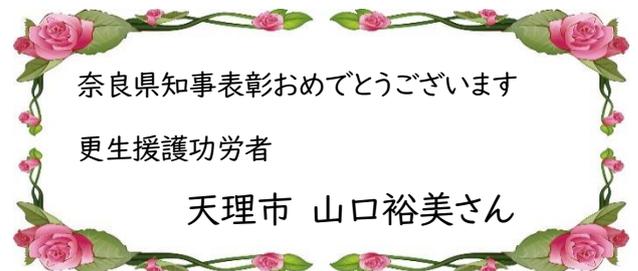
「県民だより奈良」に当会の情報が掲載されました

2022年12月号の特集「障害のある人が地域や社会とつながりながら自ら希望する人生の実現へ」の中で、当会会長から障害理解促進に関するコメントが掲載されました。

詳しくは、奈良県ホームページの「県民だより」をご覧ください。

・特集:障害のある人が地域や社会とつながりながら自ら希望する人生の実現へ

- ◆第56回近畿肢体不自由児者福祉大会滋賀大会
 - ◆奈良県肢体不自由児(者)社会見学事業
- 日帰りバス旅行 淡路ワールドパーク ONOKORO は次回53号に掲載します。



奈良県知事表彰おめでとうございます

更生援護功労者

天理市 山口裕美さん



～湯井さんの福祉防災アドバイス④～

みんなで助かる個別避難計画



2021年に災害対策基本法の一部が改正され、避難行動要支援者の個別避難計画が行政の努力義務とされ、現在、多くの自治体で作成が進められています。避難行動と避難生活に何らかの支援を受けることを予め計画して訓練まで行うための計画です。日頃の当事者の様子を知る福祉関係者が地域の支援者と一緒に計画をつくります。水害時にレベル3で福祉・医療ケアの整った避難場所へと移動する当事者を支援するための計画ですが、同じハザードエリア内に居住する住民が支援者となり一緒に早期に避難場所に向かうことで、当事者も支援者も一緒に助かるという計画です。個別避難計画づくりをきっかけに地域全体の福祉防災力が上がることを期待しています。

(一般社団法人福祉防災コミュニティ協会上級コーチ 湯井恵美子氏より)



「和気あいあい」は、会員の子供が通所・入所している福祉事業所や会員からのコーナーです。次回53号よりまた新たにコーナーを設け皆様にお届けしたいと思います。



施設長 上手 卓

障害者支援施設 菅原園



障害者支援施設菅原園は、昭和46年1月1日肢体不自由者更生施設奈良県立菅原園として社会福祉法人大倭安宿苑(以下同法人)が受託経営の上、運営を開始しました。その後、平成18年4月1日に奈良県から同法人に経営移管され、幾度からの名称変更を経た上で、平成24年3月1日より障害者支援施設菅原園として、身体障害をお持ちの方を主として、入所80名、生活介護100名、短期入所10名の定員で運営しております。

令和元年から令和2年にかけて新型コロナウイルス感染症が世界で拡がりはじめ、やがて国内での流行が幾つかの波をきっかけにより身近に近づいてくることを実感していました。そのような中、菅原園においても令和4年2月に新型コロナウイルス感染症が施設内でクラスターとなり、ご利用者・職員が多数感染することとなりました。感染対策に必要な物資の供給については、所轄庁の奈良市や法人のストックにより、切らず事無くご利用者支援に当たる事ができましたが、新型コロナウイルスの猛威を目の当たりして、いつになったら終息するのかの不安、ご利用者の容態悪化に伴う入院対応ができないことへの苛立ち、職員が次々と感染していく恐怖、このことは今でも思い起こされることがあります。その節は、ご心配・ご迷惑をお掛けして申し訳ございませんでした。そして心温まるお言葉を頂戴し、本当にありがとうございました。

施設内では換気、消毒などコロナ対策に有効なことに取り組んでいますが、障害をお持ちのご家族や我々と同じ志の事業所の皆さんで恐らく一番悩みになっているのが、障害をお持ちの方の感染対策ではないでしょうか。マスクが中々着用できない。しかし、マスクが出来ないからといって諦めていても、明るい兆しは見え、孤立していただけます。障害をお持ちの方の可能性を身近にいるものが勝手に決めつけてしまっていることは、ないでしょうか。当然失敗はつきもの。全て上手くいくわけはありません。しかし、実はトレーニングをしたら出来るようになった。という方もいるはず。あとは、我々がどうサポートすれば良いか考える。(結果は、難しい方が多いけど、とりあえずチャレンジ)

菅原園に入所されている方であっても、外部の生活介護事業所へ通所し、友達や職員さんとの交流、そして様々な創作活動。楽しいでしょうね。だからそれを寸断することなく、通所できるために考える。それが我々の目指すご利用者の寄り添いです。





さて、全く施設の紹介ができていませんでした。実は、コロナ禍を理由に中々施設内で密になるような行事が出来ていないのが現状です。季節にあった味覚を使っの食事提供(焼き芋・普段食べない高価なお肉)や外注食を頼み、普段と違う食事を楽しんでもらうことをしています。皆さんやっぱり食べるのが大好きみたいです。



また、小さな癒しとして野菜や花の苗を買い、玄関前にてご利用者と職員で愛情込めて育てています。これから益々寒くなっていきますが、その寒さに耐え、春先には今は芽を出していないチューリップが咲くのを楽しみにしています。



今回このような原稿依頼を頂き、施設紹介としては不十分な内容で申し訳ございません。これから with コロナを機に人と人との繋がりを再構築する時期がやってきます。親友(仲間)が心友となりやがて真友になる。その中心に父母の会連合会の皆様が欠かせないと存じます。これからも益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

祝 成人

おめでとうございます!

奈良市 古瀬朝陽さん 大和郡山市 堀川花菜さん



古瀬真貴 花菜、20歳の花❀ 堀川晶子

朝陽、成人おめでとう。
もう20歳なんてびっくり。
生まれた時は、泣きっぱなし吐きっぱなしで本当に育つのかとても心配でした。
奈良養護学校に入学し沢山のお友達や先生方に囲まれ楽しい学校生活が送れました。
高一の冬には胃瘻の一年後には、食道裂孔ヘルニアと大きな手術も乗り越えました。
12年もあっという間、学校も卒業し、今は生活介護にも元気にほぼ毎日通えています。
今まで支えてくださった多くの方々にここまでこれたことを感謝したいと思います。
ありがとうございました。
これからも朝陽スマイル全開で、過ごしていきたいと思っています。

花菜は三重県津市で産まれたのですがその時はまだ障害があることはわかりませんでした。7ヶ月の健診で大きな病院での検査をすすめられ、生後10ヶ月で脳の形成異常とわかったのです。すぐにリハビリを始め、保育園に通いました。そんな毎日の中で私の頭に浮かんだのは「いつでも、どこでも、誰とでも」という言葉でした。その後3歳で奈良県に移り17年、通園や学校の先生、支援してくださるたくさんの方々にこの言葉を伝え、一緒に育てていただきました。今、20歳。親バカが過ぎると思いますが、なんて頼もしい娘に成長したのだらう!と思っています。この子が娘で親としてこんなにも誇らしいことはない!と思っています。これもひとえに、かかわってきて頂いた皆さまのおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。これから先どんな未来が待っているのでしょうかね。いつでも、どんな場所でも、誰と一緒にでも、その笑顔の花をたくさん咲かせていけますように願っています。



令和4年度賛助会員一覧

賛助会員の皆様の本会活動に対するご理解とご支援に深く感謝申し上げます

<団体名>

NPO 法人サポートセンターはあと 理事長 菊山礼子	社会福祉法人あけび 理事長 松村和泉
訪問看護ステーションならまち	NPO 法人 わかくさもえぎ
一般社団法人賀花 居宅介護 椿	南都 十輪院
NPO 法人団栗会	奈良県障害者福祉連合協議会 会長 藤井正紀
社会福祉法人嘉耶の会 はるかぜ	奈良県障害者福祉連合協議会
株式会社 Aiwill いろは いろは園	一般社団法人 おたがいさま

<個人名>

田口 玲子	阿部 宜子	細川 愛子	筒井 英子
他 4名匿名の皆様			

※2022年12月現在、敬称略、順不同



宗教法人円応教 円応青年会様より

100,781円ご寄付いただきました
厚く御礼申し上げます

福祉支援自動販売機の設置ご協力をお願い

コカ・コーラ様より支援を受けています。
全国各地の学校や公民館など行政施設や支援企業、個人のご協力を得て「福祉支援自動販売機」を設置しています。



「福祉支援自動販売機」は、売上の一部が全肢連、都道府県肢連並びに、地域父母の会の事業費として寄付されます。
お問い合わせは
奈良県肢連事務局まで

～編集後記～

これからも引き続き、会員からの発信、皆様のお役に立つ情報の提供や内容の充実に努めてまいります。より良い広報誌になるよう、皆様のご意見ご感想をお聞かせ下さい。また、ホームページも常時更新しておりますので、是非ご覧ください。

当会のリーフレット・広報誌をご入用の方はお気軽に事務局までお問い合わせください。

今年も皆様にとって良い年でありますようお祈り申し上げます。

今後の予定

- ◇パソコン教室 1月31日(火)
- ◇第54回 奈良県肢体不自由児者
父母の会連合会総会
6月1日(木) 奈良県社会福祉総合センター
- ◇第56回 全国肢体不自由児者父母の会連合会
全国大会岡山大会 8月5日(土)～6日(日)
場所:岡山コンベンションセンター
- ◇第17回チャリティー墨書展
9月9日(土)～10日(日)
場所:東大寺総合文化センター 会議室
- ◇第57回 近畿肢体不自由児者福祉大会
兵庫大会(姫路) 10月14日(土)
- ◇近畿ブロック地域指導者育成セミナー(大阪)
11月25日(土) または 12月2日(土)